

1 はじめに

国においては、森林を健全に育成し、多面的な機能を十分に発揮させるため、平成12年度を初年度とする「緊急間伐5カ年計画」を策定し、百万ヘクタールの森林を緊急かつ計画的に整備することとしたところである。

これを受けて岩手県では、82,000ヘクタールの間伐をする「岩手県緊急間伐5ヵ年計画」を策定したところであり、花巻普及指導区では、5ヵ年間に3,700ヘクタールの間伐を実施する予定である。しかしながら木材価格の低迷等により、森林所有者の経営意識の低下のため間伐の実行が落ち込んでいる状況である。

この状況のもとで、間伐推進のために平成12年度実施した活動を報告する。

2 花巻普及指導区の概要

当指導区は、花巻市を中心とする1市3町からなり、盛岡市から南へ約40kmのほぼ県中央部に位置している。区域面積は、90,832ヘクタールで県土の約6%を占めている。森林面積は、区域面積の66%に当たる59,888ヘクタールであり、うち民有林は54.2%にあたる32,461ヘクタールである。

民有林人工林は15,536ヘクタールで人工林率は47.9%となっている。

3 活動の方法及び経過

(1)間伐実施に向けた普及啓発

ア. 年度始めの4月に19カ所において集落座談会を開催し、間伐の必要性や補助制度について説明を行った。

イ. 10月に花巻地方林業振興協議会主催の育樹祭が開催され、参加者に対し、除間伐作業の指導を行った。

ウ. 11月に間伐講習会を開催し、現地及び室内において間伐技術やコスト低減の間伐方法等を指導した。

エ. 12月には、「ボランティアによる間伐」を企画したところ事前の周知不足のためか参加者が10名と少なかったが、間伐への理解が得られた。

オ. 12月～1月には特に間伐収入も見込める8、9齢級の高齢級林分の間伐の掘り起こしを図った。

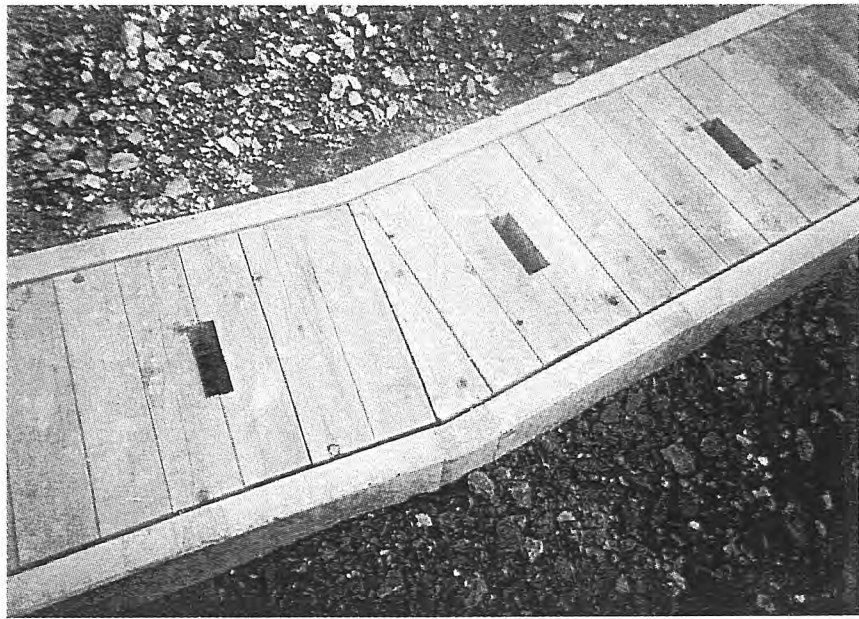


間伐現地講習会

(2)間伐材利用の開発

間伐の推進には、間伐材の利用拡大が大きな課題となっている。

このため、側溝蓋への木材利用を大迫町森林組合へ提案し、試作を続け平成12年の6月に製品化を図った。



木製側溝蓋布設状況

7月からは量産体制をとり12月末までに3,023枚(115㎡)を生産し、花巻管内の県営林道工事2路線で使用された。

「木製側溝蓋」は①環境にやさしい素材である②軽くて施行が簡単③建設コストが安い等の特徴がある。

4 活動の結果

平成12年度の間伐の実績はまだ確定していないが、補助事業の計画では前年度比140%の607ヘクタールの見込みとなっており、間伐への関心が高まってきた結果と思う。

間伐材を利用した「木製側溝蓋」への取組みが新聞、テレビで報道されたことから、問い合わせが多く、今後の販路拡大に大きなはずみとなった。

5 今後の活動方向

当指導区では人工林の50%が間伐対象森林であり、まだまだ間伐すべき森林が多く、今後とも集落座談会等での普及啓発の強化により促進を図っていく。

また、木製側溝蓋の需要拡大のためにパンフレットを作成するなど間伐材の利用促進を図っていく。

間伐実施に向けた普及啓発の取組み

岩手県緊急5ヵ年対策年度別計画

単位: ha

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	計
県	15,000	15,600	16,600	17,000	17,800	82,000
花巻	680	710	750	770	800	3,710



花巻地区間伐講習会（室内研修）の様子



ボランティア間伐の様子

各種イベントにおける間伐材利用への取組み



新たな間伐材利用への取組み

